

---

# 翔と心霊研究の愉快的仲間たち

翔壱

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

翔と心霊研究の愉快な仲間たち

### 【コード】

N4036Q

### 【作者名】

翔吉

### 【あらすじ】

高校に入学した、主人公の翔は、無理やり入れられてしまった翔の運命はいかに……

## プロローグ（前書き）

どうもはじめまして、翔吉です。今回、がんばって書いてみましたので、皆様よろしくお願いいたします。

## プロローグ

「お父さん、お母さん、綾香、早く遊園地に行こう。準備できたからさ」

「そうだな、行こうかママ、綾香」

「お父さんどうしたの……ママや綾香まで……」

「何でみんな一人にするの？」

「みんな……置いて行かないで！」

「ちゃん……」

「お兄ちゃん」

翔はベッドから飛び起きた……。

「う……」

妹は言った。

「お兄ちゃん？また、あの夢を見ていたの？」

「そうだけど」

夏木翔は毎年4月ごろになると家族がどこへ行ってしまっなつきかける夢を見る。

理由は、5年に両親が首を吊って自殺した。

その第一発見者が、翔だった。それからというもの翔は毎年見ているのだ。

妹の夏木綾香は今年から中3になるのだ。なつきあやか  
そして綾香は微笑んで言った。

「お兄ちゃん、早く朝ごはん食べて学校行く準備して、入った早々遅刻なんてかっこ悪いから」

「あ…ああ」

そして、二人は朝食を食べて、綾香と翔は一緒に学校に向かったのであった。

中学校と高校はすぐ近くにあるのだ。

「俺はもう高校1年か……ハア」

「お兄ちゃんってば落ち込まない。ほらキスしてあげるから元氣出してね」

「綾香こんなところでは、まずいんじゃないか……」

「お兄ちゃんって馬鹿だねキスなんかするわけないじゃん、何期待してるの」

「綾香お前は……」

と変わらない、たわいのない会話をしながら学校へ向かった。いつもの様に……。

そして、翔は学校に着いた。

クラスは1年C組で、1年～3年のクラスはA～Eまでである。とにかく大きな学校だ。

翔は自分のクラスに入った。

とまあ、その日は何とか無事に終わり

それから、いつものごとく放課後に部活の見学に行のた。

そして、見て回っていると聞いた事のない部があった。

その部とは、心霊現象研究部、通称、S研という変な部活だ。そして入ってみると……

そこにはなんと手鏡で自分を映して微笑みながらため息をついている1人の生徒がいた。

翔は恐る恐る声をかけた。

そしたら、相手が振り向いたそして、相手が急に自己紹介を始めた。

「僕の名前は佐藤翔吉S研の2年部員で部長だよ」

あいては、微笑みながら言ってきた。

翔はどうする事もできずただ呆然としていた。

すると相手がまた言ってきた。

「えっと……入部決定だ」

なぜか、急に会った早々俺は変な部活に入らされた。

そして、俺は、副部長になった。

そして翔吉先輩曰く可愛い女の子の部員がほしいと言い出した。

そして、俺は仕方なくS研宣伝ポスターを作った。

もちろん忘れずに部員募集中と書き込んだ。

そして、それを印刷して、学校内のいたる掲示板に貼ってきた。

そしたら、数日後入部希望という女子が3人やってきた。

しかも翔の好みのタイプの女子もいた。

そして部長自らS研の紹介と俺たちの自己紹介を始めた。

「僕はこのS研の2年部員で部長の佐藤翔吉。ま、気軽に部長と呼んでくれたまえ」

「そして、こいつがS研の副部長の翔君だ」

「俺が紹介してもらったように、このS研の副部長で1年C組の夏木翔です。よろしく！」

そして説明と自己紹介を聞いて、3人とも入部する事に決めた。

そして、三人は順番に自己紹介を始めた。

「私は、1年C組の合川朋美あいかわともみです。気軽に朋美と呼んでください。よろしくお願いします。」

「わたしは、1年E組の合川明美あいかわあけみです。わたしは朋美の双子の妹です。気軽に明美と呼んでください。よろしく。」

「あたしは、1年C組の朝比奈由美あさひなゆみです。気軽に由美と呼んでください。よろしくです。」

三人は自己紹介を終えた。

すると、部長の翔君先輩が急に変な事を言い出した。

「君たちの中で、幽霊を見る事ができる人はいるかい？」　する  
と、一人の女の子が手を上げた。

「わたし、子供のころから幽霊が見えます」

明美が言った。

すると部長はその子にこの部屋にいるかどうか聞いた。

すると女の子は言った。

「今は、いないけど夜になったらこの学校、たぶん5、6体は出ると思います」

そして部長は何かを思いついたように、また変な事を言い出した。

「皆、ビデオカメラとデジカメがこの部にあるから、これを使って幽霊を取ろう！という事で、早速今夜9時に学校の校門前に集合！」

そのための準備を皆でした。

そして下校時刻になったので皆帰って、夜の戦いに備えるのだ。

だが、俺は事を少し甘く見ていた。そして、あんな悲劇が起こるとは……。

## ブログ（後書き）

ぜひよければ評価をしてください。

投稿は少し遅いかもしれませんがよろしく願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4036q/>

---

翔と心霊研究の愉快的仲間たち

2011年10月4日23時13分発行